

諏訪市長 金子 ゆかり 様

政 策 提 言 書

「耳で聴けるハザードマップ」の作成に向けた提言

諏訪市議会 総務産業委員会
委 員 長 藤 森 靖 明
副 委 員 長 小 山 博 子
委 員 岩 波 万 佐 巳
委 員 吉 澤 美 樹 郎
委 員 小 泉 正 幸
委 員 高 木 智 子
委 員 井 上 登

はじめに

令和6年元日に発生した能登半島地震では、災害は時を選ばずやってくることはもちろん、自分の命を自分で守るために、防災、避難所の場所・経路、居住地域に潜む危険箇所等を、あらかじめ知識として得ておくことが、大変重要であることを再認識することとなりました。

しかしながら、それを目的に作成された現在の諏訪市マルチハザードマップは、災害時に情報弱者となりうる目の不自由な方や文字を読みづらい方等に対し情報が明確に伝わりにくいため、災害時の安全確保のためにも音声で情報を伝えられるような環境の整備が必要です。

また、令和4年5月に施行された「障がい者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律」では、障がい者が、可能な限り、障がい者でない者と同一内容の情報を同一の時点で、取得できるようにすることが、基本理念にうたわれています。

そこで、ハザードマップの改訂年度に合わせて、音声コード対応のマップ「耳で聴けるハザードマップ」を作成するよう、当委員会は次のとおり政策提言をいたします。

「耳で聴けるハザードマップ」の作成に向けた提言書

1. 災害時の避難情報は命に直結する。情報を文字で取得しにくい方々の安全確保のためにも、QRコードを読み取ることで音声情報が伝わるヴォックスを活用すること。
2. 貼付するQRコードの位置をわかりやすくすること。
3. 防災知識編、避難所情報、地域ごとの危険度等について、専門用語を避けわかりやすい日本語で説明すること。
4. 可能な限りリアルタイムで情報を発信できるよう、工夫すること。
5. 将来的には、外国籍の方の安全確保のため、多言語に対応したものとする

おわりに

令和6年8月8日に日向灘を震源とする地震が発生し、南海トラフ地震との関連が報じられ、しばらくの間「身の安全を守る行動を」と情報が発信されていました。しかし、目の不自由な方や文字を読みづらい方が必ずしも点字を読めるわけではなく、読める方は僅かにとどまり、音で情報を得ています。身の回りの何が危険なのかという情報が得られなければ、身の安全を守る行動ができません。必要としている情報をいち早く耳で聴いて、確認できるようにすることを願っています。